

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2025年12月19日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2025年12月7日～11日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、XCTDによる環境調査を実施したので、結果をお知らせします（図1）。
調査結果は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は主に檜山沖の水深300～500mに分布していた。
- 檜山沖のスケトウダラ魚群反応量は2022年の約1.7倍であった。
- スケトウダラが分布していた水深300～500mの水温は0.7～1.4°Cと平年並であった。乙部沖および江差沖の水深100～200mにおいては平年よりも1～2°C低い水温であった。

● スケトウダラ魚群の分布状況

・水平分布

スケトウダラ魚群の多くは、魚探航走を行った奥尻海峡から上ノ国沖にかけて分布していました（図2）。

・鉛直分布

魚探航走を行った範囲では、スケトウダラ魚群は概ね水深300～500mに分布していました（図3）。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚探反応量の経年変化

スケトウダラ延縄漁場とその周辺（図1の赤破線枠内）のスケトウダラ魚探反応量（sAの合計値）は8,363でした（図4）。欠測年を除いた最近年の2022年と比較すると約1.7倍でした。

● スケトウダラ延縄漁場域の水温環境

スケトウダラが分布する水深300～500mの水温は、乙部沖・江差沖および上ノ国沖で0.7～1.4°Cと、ほぼ平年並で、直近に観測を行った2023年同時期と比べると0.1～0.6°C低くなっています（図5）。また、乙部沖および江差沖の水深100～200mでは平年よりも1～2°C程度低い水温となっていました。

● その他の参考情報

計量魚探調査におけるスケトウダラ以外の反応として、イワシ類とみられる反応が観察されました。反応は主に水深100m以浅で見られ、調査範囲では最も岸に近い場所で反応が強くなっています（図3の魚探画像参照）。

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施した

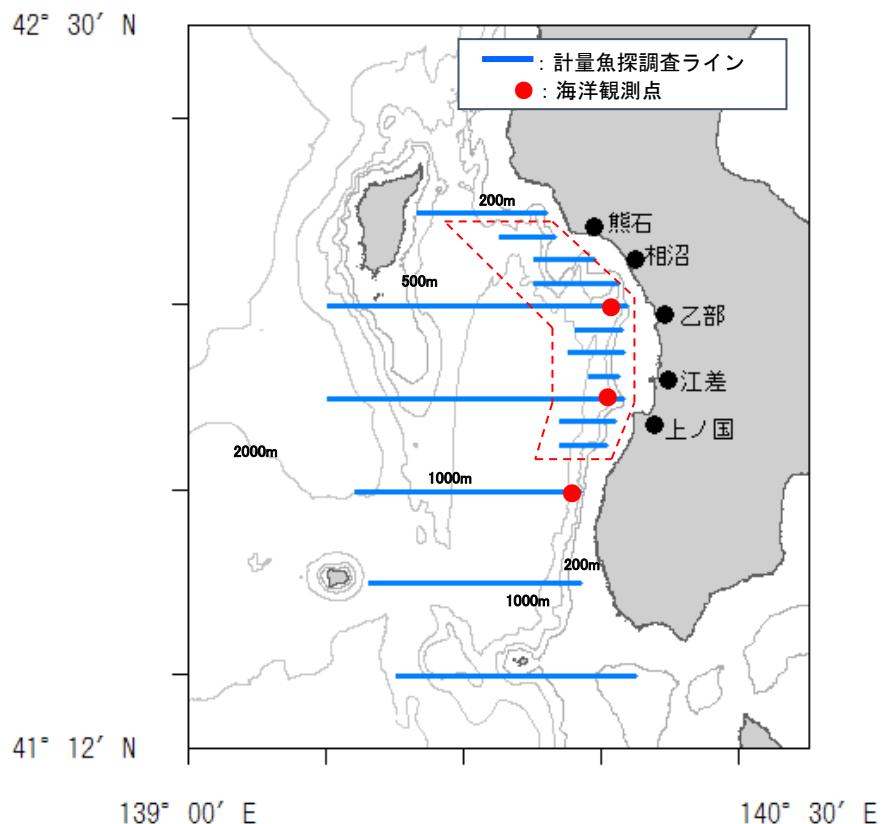


図1 調査海域図
※赤破線は図4の魚群反応量を算出した範囲

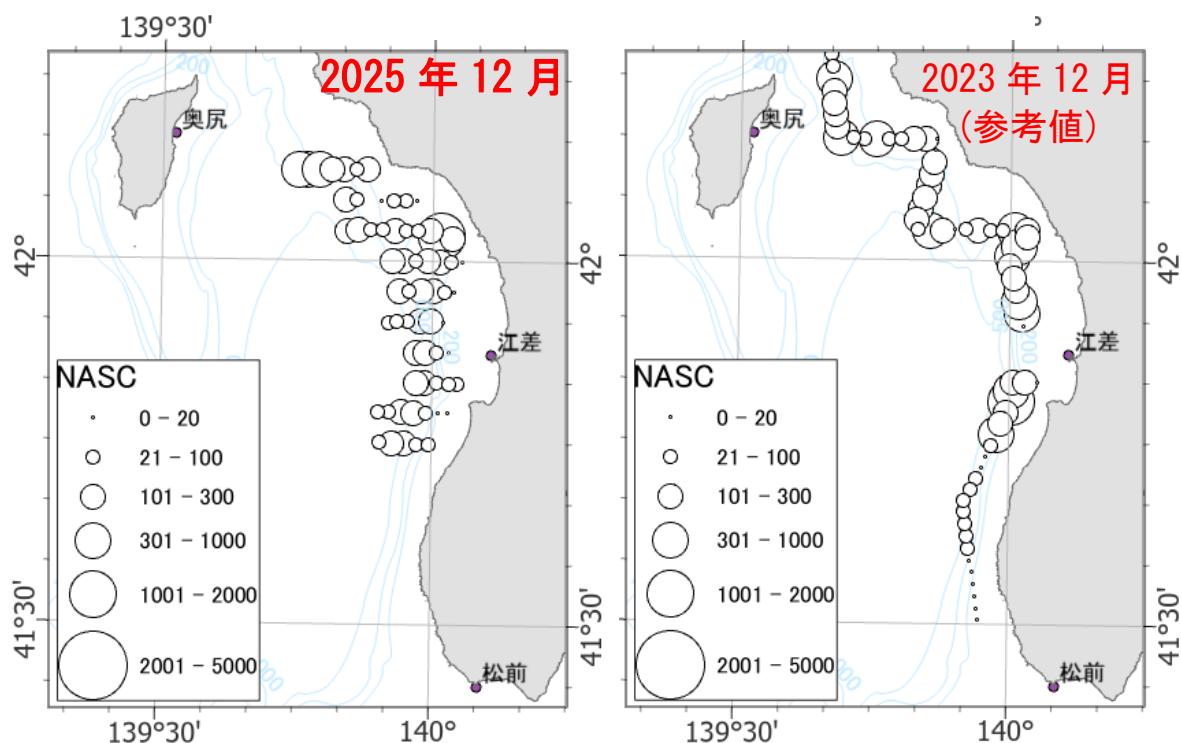


図2 計量魚探調査による魚群反応量 (NASC (m^2/nmi^2)) の水平分布
※魚群反応量 (NASC) : 1マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。
○の大きさが魚群反応量の強さを示す。2023年は参考値

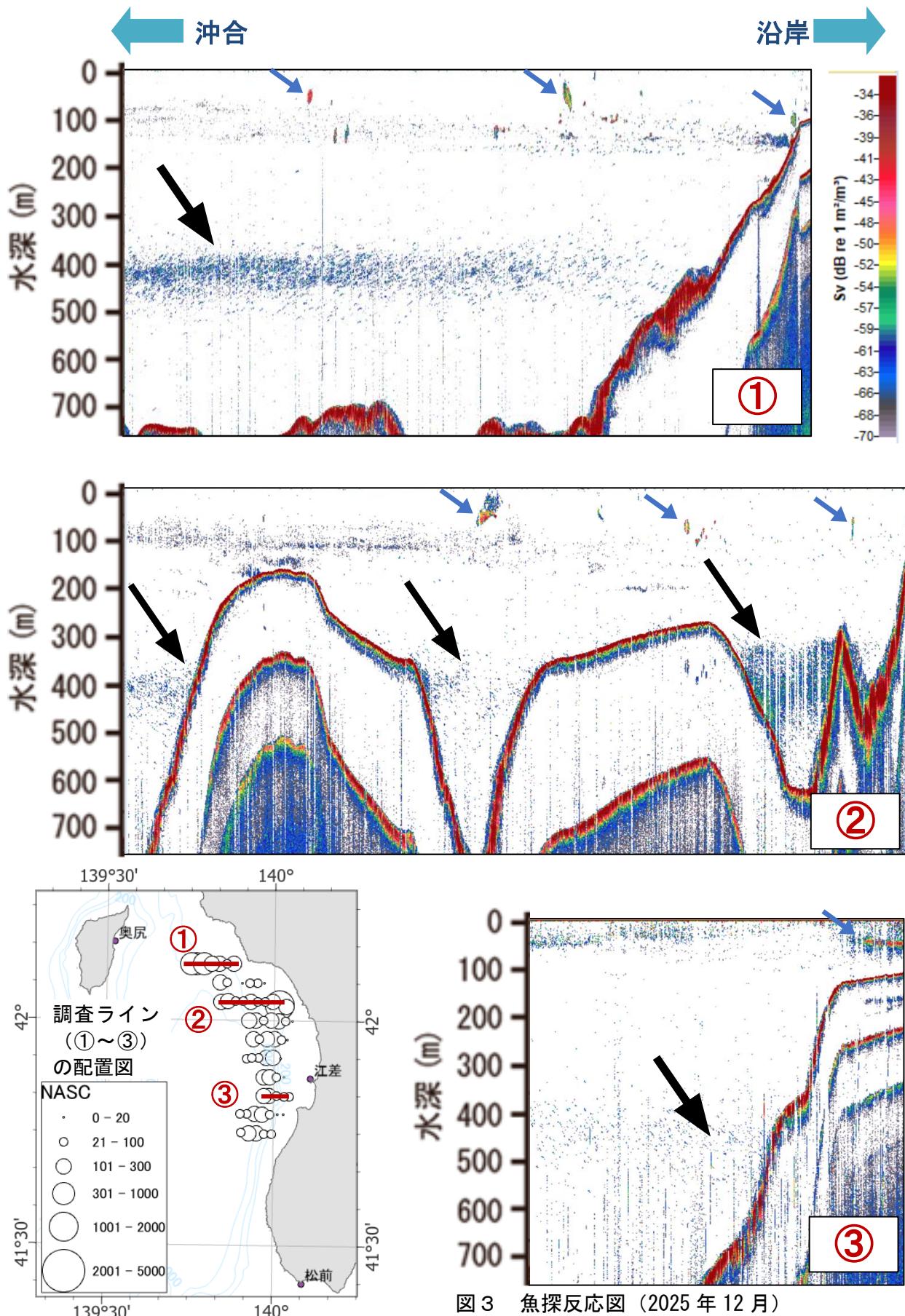


図3 魚探反応図（2025年12月）
 ※矢印 はスケトウダラ反応
 ※100m以浅の反応 はイワシ類と考えられる

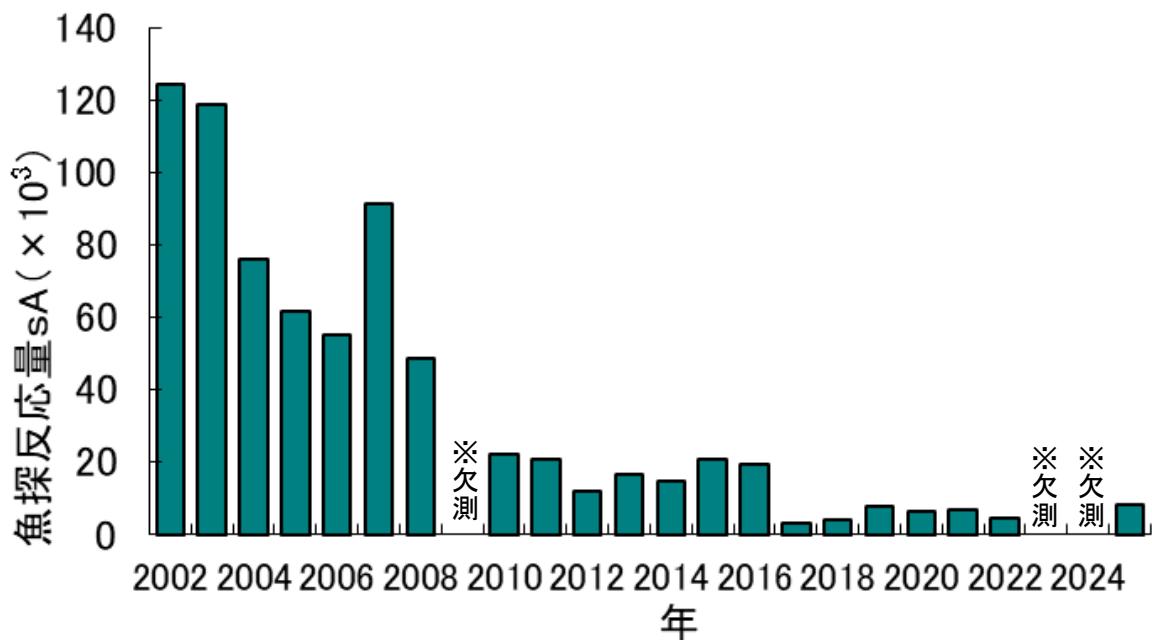


図4 スケトウダラ延縄漁場とその周辺における魚群反応量の経年変化
※2009・2023・2024年は荒天で調査できず

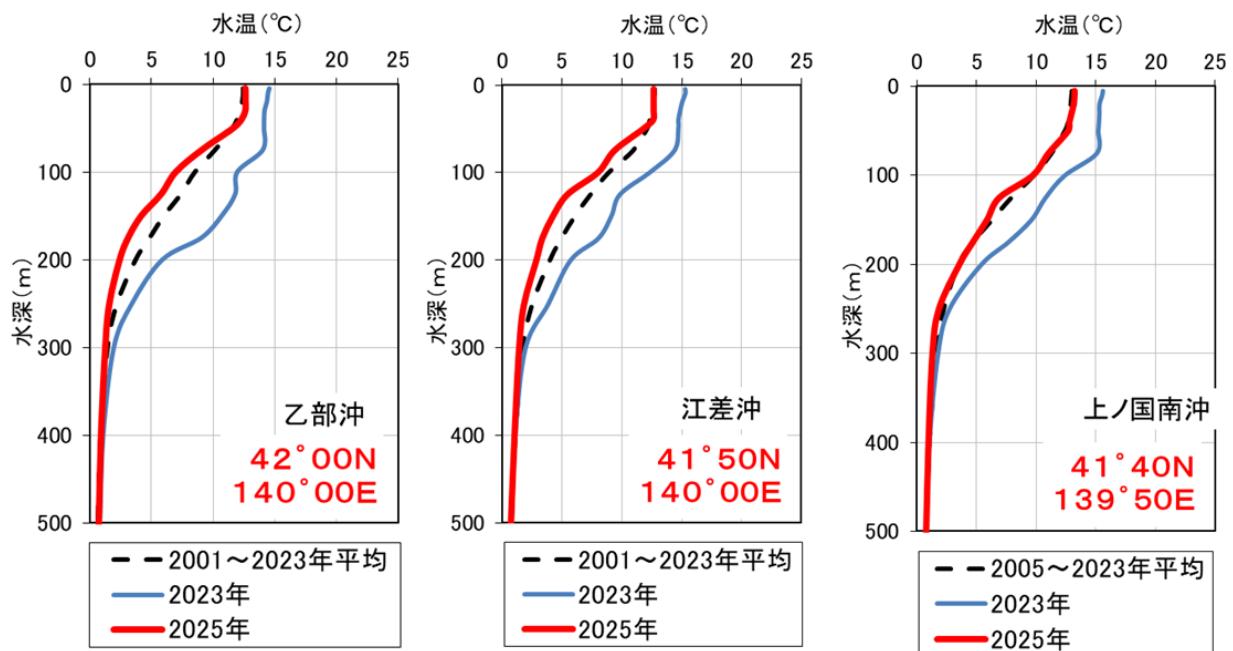


図5 乙部沖(左), 江差沖(中), 上ノ国南沖(右)の鉛直水温分布(2025年12月)